

マンスリー・ハイライト 拝啓社長殿 トップのための経営財務情報

第490号 この資料は全部お読みいただいて110秒です。

今回のテーマ： クラウドコンピューティングの利用と内部統制

東日本大震災及び計画停電を機に、企業の BCP（事業継続計画）の対応策の一つとして、クラウドコンピューティングに対する需要が高まっています。

クラウドとは

クラウドはまだ発展途上であり、明確な定義付けはありませんが、利用者の立場から言うと、「インターネット上のどこかにあるIT資源を、必要なときに必要な量だけ、サービスとして使用する。」ということになります。

クラウドの特徴

クラウドの特徴（メリットとデメリット）は以下の通りです。

<メリット>

- 処理能力や容量を柔軟に調節できる。
- 初期投資が少ないため、変化に対しての迅速な対応が可能となり、ビジネス立ち上げのスピードも速い。
- 自社での設備投資やシステムの運用・管理が少額で済む。

<デメリット>

- 高い信頼性が求められる機密情報の取り扱いには向かない。
- 既存のIT資源への投資が大きいほどコストメリットは少ない。
- データの保管方法や保管場所によっては、データが適切に保護されない場合がある。

クラウド導入の効果

従来はコスト削減メリットに注目が集まっていましたが、企業のIT投資額は売上高の2~4%程度であり、実際にはそれほど多額なコスト削減効果は見込まれないようです。

一方で、より有効な活用方法として、最近はビジネススピードの向上があげられています。システム構築期間は平均4.8ヶ月かかるというデータがありますが、株式会社セールス・フォース・ドットコムによると、5分の1に短縮が可能となることがあります。スピードが求められる新規ビジネスの立ち上げには、クラウドサービスの利用が非常に有効となります。

また、震災後はクラウドサービスをBCPや危機対策を主目的として導入する例が増加しています。災害発生時の情報共有手段の確保や在宅勤務制度の確立、データバックアップ、節電・停電対策などにクラウドサービスが活用され始めています。

お見逃しなく！

クラウドサービスには様々なメリットがありますが、通常のIT資源と異なり、ブラックボックス化された雲の向こうのサービスには自らの統制がおよびづらいため、内部統制上はセキュリティやデータ保護の問題などに注意して導入を検討する必要があります。

過去における障害事例としては、2009年3月にGoogle Docsにおいて意図しない相手とドキュメント共有が図られたケースや、同年4月に米国のクラウドサービスのサーバーがFBIにより押収されるなどが存在します。

また、特にクラウドサービスに対する監査が必要な場合には、各種ログ（アクセスログ、操作ログ、エラーログなど）の取得可否、バックアップの方法、障害時の対応についても注意が必要です。